

キッズファーストアクション

保育園・幼稚園等「野球あそび体験活動」マニュアル

2025年10月

日本高等学校野球連盟

日本高等学校野球連盟と日本野球機構（NPB）は2025年7月、未就学児等への野球の普及振興事業を連携、協力して実施していくことに合意しました。この共同事業は「キッズファーストアクション～みらいへのキャッチボールプロジェクト～」と名付けられ、高校球児と幼児が野球あそびを通じて触れ合う機会を全国に創出し、継続して実施することを両者で目指していきます。具体的には、日本高野連加盟校が地域の保育園、幼稚園、こども園等を訪問し、野球あそびの体験活動を行うことを奨励していきます。

日本高野連では、加盟校の訪問活動が円滑に進められるよう、マニュアルを作成いたしました。2017年から「1校・1園の普及活動」として保育園、小学校の訪問活動を実施している島根県高野連が作成したマニュアルを基に、全国の加盟校が共通して使えるものを目指しました。都道府県連盟や加盟校は実情に応じて改変するなどしてご活用ください。

実施の目的

- ▶ 子どもたちが野球に触れ、野球の楽しさを知るきっかけを作る。
投げる、打つ、捕るなど野球の動きを取り入れたあそびで、野球の楽しさや身体を動かす楽しさを体験する機会を提供する。
- ▶ 子どもたちと一緒にあそぶ体験を通じて高校生の視野を広げ、部員個人、チームの成長につなげる。
- ▶ 子どもたちが楽しんでボールを追いかける姿をみて、高校生も野球の楽しさ（原点）を思い出す。
- ▶ 高校球児と触れ合う経験をすることで、野球に対する印象を向上させる。
礼儀正しさ、元気よさ、丈夫な体などをアピールして、高校野球に対する印象を良いものにする。親や保育士らに子どもが将来こんな高校生になってほしいと思ってもらう。

1. 保育園等に訪問の依頼をする。

- ▶ 高校から近距離の保育園等に連絡し、野球あそび体験活動のための訪問をお願いする。
必要に応じて、依頼状（様式①）などを活用する。

☆ 訪問先選定のヒント

- ・ 距離的に近い方が継続しやすい。
- ・ 部員の卒園した保育園等に行くと大変喜ばれる。
- ・ 家庭科の保育実習等で繋がりのある保育園等を家庭科教員から紹介してもらう。
- ・ 野球部の保護者や指導者の家族、卒業生らが保育士等として勤務している保育園等。
- ・ 野球部の指導者らの子どもが通園している保育園等。

2. 日程等を打ち合わせる。

平日の日中が保育園側としてはよい。練習に負担のないように日程を調整する。

◇ 日時

- ・長期休業中の平日の午前（10時～11時）
- ・平日の振替休日（10時～11時）
- ・テスト最終日の午後（15時～16時）
- ・平日の放課後（16時～18時） など

◇ 場所

- ・保育園の園庭
- ・保育園の遊戯室（狭い場合は安全に実施できる内容で）
- ・保育園の近隣の体育館
- ・オフシーズンは、体育館や遊戯室等の屋内施設の方が活動しやすい。（廊下や空き教室も使える）
- ・高校のグラウンドや体育館
- ・高校生が保育園に自転車等で移動した方がよい。（チームによっては、マイクロバスなど）

◇ その他

- ・打ち合わせは教員だけでなく生徒も一緒に行くと教育的効果がある。（活動場所や動線を確認しておく）
- ・学校のウェブサイト等に実施の様子を公開する。その際は園側に事前に相談し、必要があれば園児の保護者から同意書をとる。
- ・保育園側の許可が得られれば報道機関等に告知することも効果あり
- ・保育園等の施設で行う場合は、保育園等で加入している総合保険で対応している希望者を募って高校で行う参加型の場合は、掛け捨ての傷害保険に加入する。保険料（100円程度）は自己負担とする

3. 実施内容を考える。

➤ 用具の準備

- ・「キッズファーストアクション」プロジェクトでは、ビニールボール、リストバンド、キャップ、N-ball、ティールボール台セットを希望する加盟校に提供する。資料①『「キッズファーストアクション」NPB提供グッズの注文方法』を参照し、事前に希望調査（様式②）を提出したうえで、注文フォームから必要なものを申し込む。

※提供できるグッズの数には限りがあります。加盟校で確実に使用する数を注文してください。

- ・ボールケースやコンテナなどがあれば用具の保管や管理、持ち運びに便利。
- ・バットやボールは100円均一で購入したもので、新聞紙とビニールテープで高校生が手作りしたもので使える。ストラックアウトの的なども模造紙と段ボールで手作りできる。

➤ メニューの検討

- ・1時間～1時間半程度（もっとやりたいと思うぐらいで終わる）
- ・各校に配布したNPBの冊子「幼児の楽しいボールあそび活動」「笑顔のキャッチボール」「幼児とボールで楽しく遊ぶには」を参照する。

- ・メニューはできるだけ生徒に考えさせる。(体験内容を考えたり、道具を手作りしたりすることも高校生にとって貴重な経験となる)。
- ・園の遊戯室等、狭い場所で行う場合は安全性を考慮したメニューを考える必要がある。

➤ メニュー例

◇ 開会式 お互いに向かい合って元気よくあいさつをする。

◇ ウォーミングアップ

簡単な屈伸・前屈などの体操や高校生と手をつないでのジョギングなど。身体と気持ちをほぐす意味では、高校生が鬼になっての「鬼ごっこ」「追いかけてっこ」なども効果的。

◇ ボール投げ：基本的な投げ方を教える。(ボールを持った逆の足を上げて、など)

- ・キャッチボール：高校生と1対1か1対2ぐらいで、ゴロから始めてみる。

園児の能力に合わせて、ワンバウンド、ノーバウンド、小フライなど。

- ・遠投：1列に並んで誰が一番遠くまで投げられるか競争する。

- ・的当て：ストラックアウトなどを使って的当てをする。

◇ バッティング：基本的なバットの握り方や立ち方、振り方などを教える。

- ・バットを振り回さない、打った後バットを投げないなどの危険性についても教える。

- ・コーンに置いたボールを打つ。(園児には意外と難しい)

- ・高校生がトスしたボールを打つ。

- ・高校生がトスしたスポンジボールを子供用テニスラケットで打つ(オススメ)

- ・バットでなかなか当たらないようなら、ラケットや手で打たしてみる。

- ・スポンジボールを使用すれば、狭い場所でも円になって中心へ向かって打つような状態で大人数が一斉に打てる。(オススメ)

◇ ゲーム形式：実施場所の広さに応じた内容を考える。(体育館等の広さが必要)

形式・・・ダイヤモンド、三角ベース、1塁のみ(本塁と1塁の往復)など

得点・・・ベースを1つ踏めば1点、1周で1点など

◇ 閉会式：お互いに向かい合って元気よくあいさつをする。

ハイタッチやハグなどのスキンシップをするのもよい。記念写真撮影など。

➤ 参考情報

- ・ガムテープ、養生テープなどで名前(参加園児・野球部員)を胸のあたりに貼って、お互いに名前呼び合えるようにする。

- ・事前に色分けしてグループを作っておくと活動効率が上がる。「キッズファーストアクション」プロジェクトで提供する色別のリストバンドやキャップを活用する。

- ・メニューをホワイトボードなどを書いておいて発表する。

- ・高校生の「言葉かけ」がとても重要。前向きに誉める言葉かけができるように事前に練習しておくとうい。園児の目線に合わせて声をかけるようにする。

- ・バットを振りまわしたり投げたりすると怪我につながるため、バットやラケットを使い始めたら、バットを持っている子どもや順番待ちの子どもの周辺には高校生を配置して安全を確保する。

- ・カメラやビデオで記録を残しておく。

- ・高校生が折り紙で作ったメダルや手紙などをプレゼントすると大変喜ばれる。

4. 実施報告

活動終了後、14日以内に、実施状況を報告する。

報告は「キッズファーストアクション実施報告」フォーム

<https://42271387.form.kintoneapp.com/public/kfa> から行う。



5. その他

- ・野球部内に生徒の「普及班」「普及係」などを置いて、体験内容や準備物等を部員主体で考えさせたり、運営させたりすることが貴重な体験となり、人間力の向上、チーム力の向上にもつながる。
- ・普段接点のない保育園等と連携することに対してハードルが非常に高い。しかし、実施した指導者に聞いてみると、みんなが口をそろえて「意外と簡単にできた。」と回答している。
- ・実施については内容や場所、時間など、できる範囲でできることをやるぐらいに気楽に考える。
- ・2025年8月8日、兵庫県西宮市の阪神甲子園球場近くの甲子園プラスで「高校野球200年構想ミーティング～普及・振興実践報告会～」を開催しました。先進的に普及、振興活動を行われている島根、和歌山両県連盟の関係者が報告した様子を、下記から視聴いただけます。

<https://drive.google.com/file/d/1fIP23f0nXz4mXVnwWht7p5MjhwvANpwf/view?usp=sharing>

以上